

付録－２

第三者被害を予防するための 橋梁点検の対象範囲

付録ー２ 第三者被害を予防するための橋梁点検の対象範囲

1. 調査対象とする橋梁

調査対象とする橋梁は

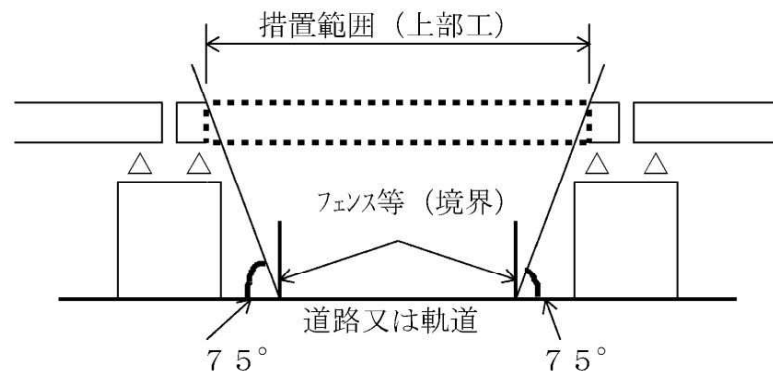
- ① 桁下を道路が交差する場合
 - ② 桁下を鉄道が交差する場合
 - ③ 桁下を公園あるいは駐車場として使用している場合
 - ④ 近接して側道又は他の道路が並行する場合
- 等、第三者被害の可能性がある橋梁とする。

2. 措置対象範囲の標準

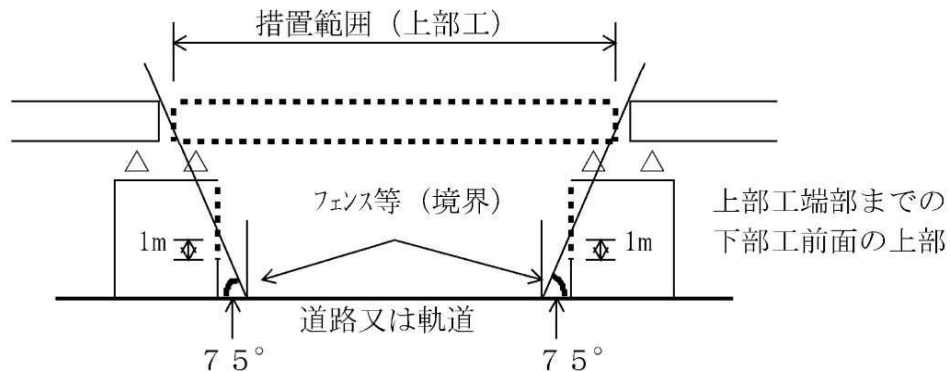
措置対象範囲は、以下の図に示す 線範囲を標準とする。

(1) 交差物件が道路、鉄道などの場合

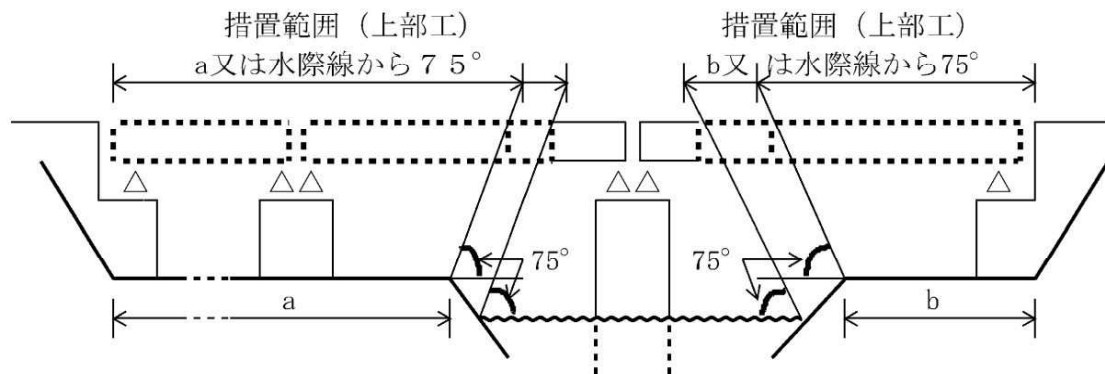
- ① 下部工前面が俯角 75° より離れている場合



- ② 下部工前面が俯角 75° の範囲に入る場合



(2) 交差物件が河川などの場合



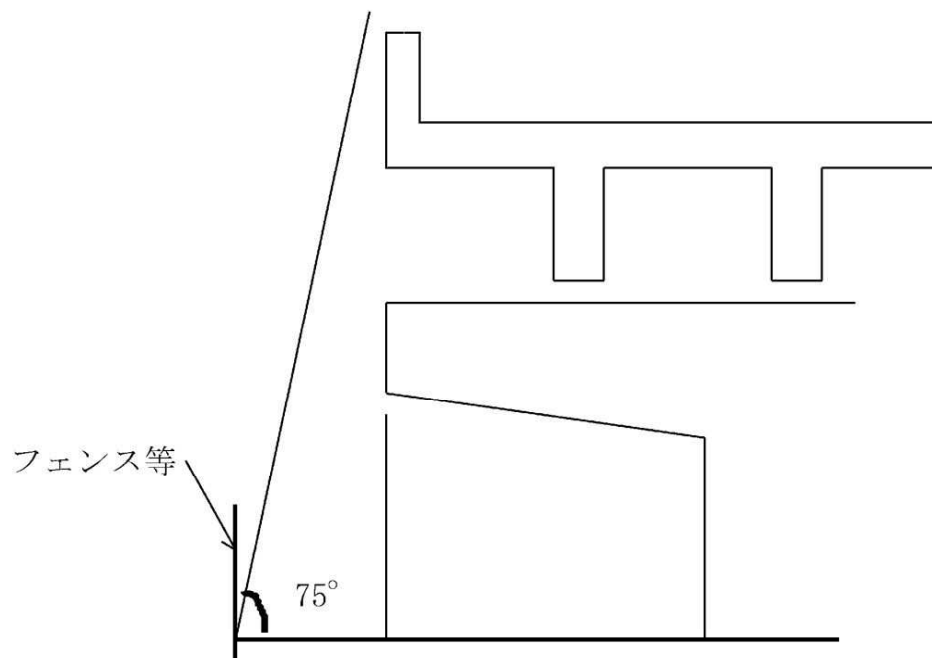
*河川内で高水敷が河川公園等で第三者が立ち入る可能性がある場合の措置範囲は
a 又は水際線, b 又は水際線から 75° 範囲内の上部工とする。

*下部工については(1)の①及び②と同様の考え方とする。

(3) 並行物件の場合

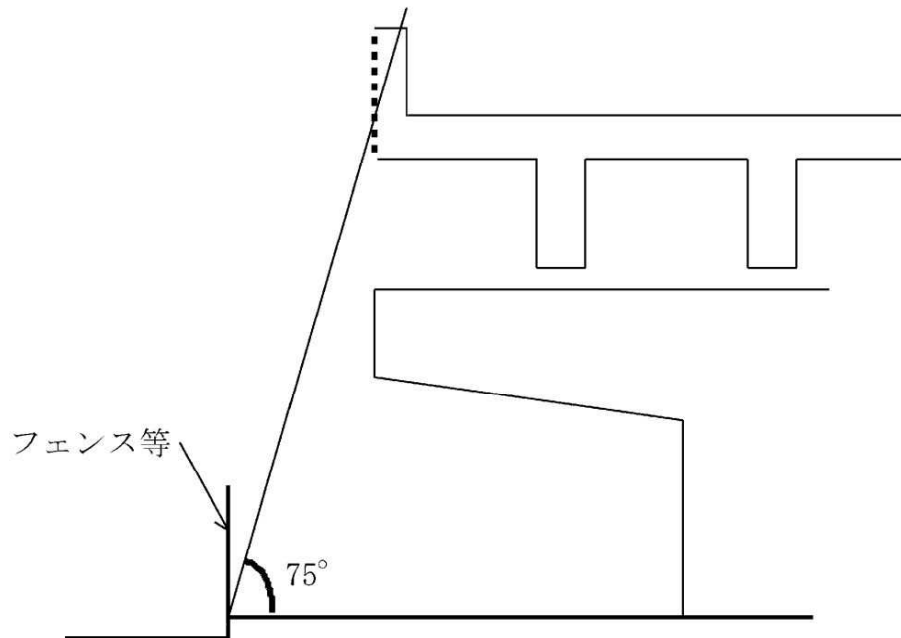
① 並行する物件 (道路等) から俯角 75° より離れている場合

点検対象なし

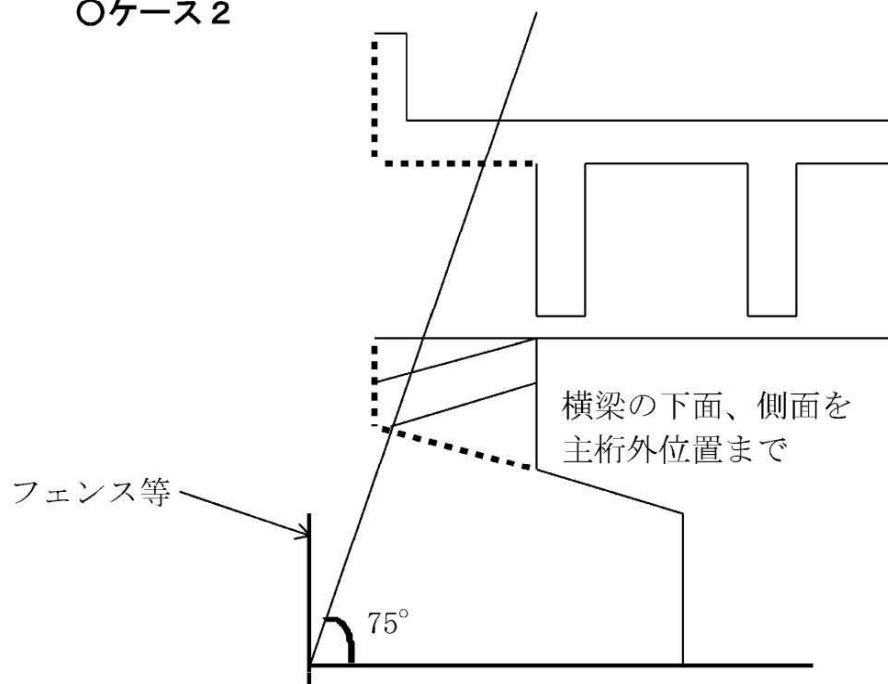


- ② 並行する物件（道路等）から俯角 75° の範囲に入る場合

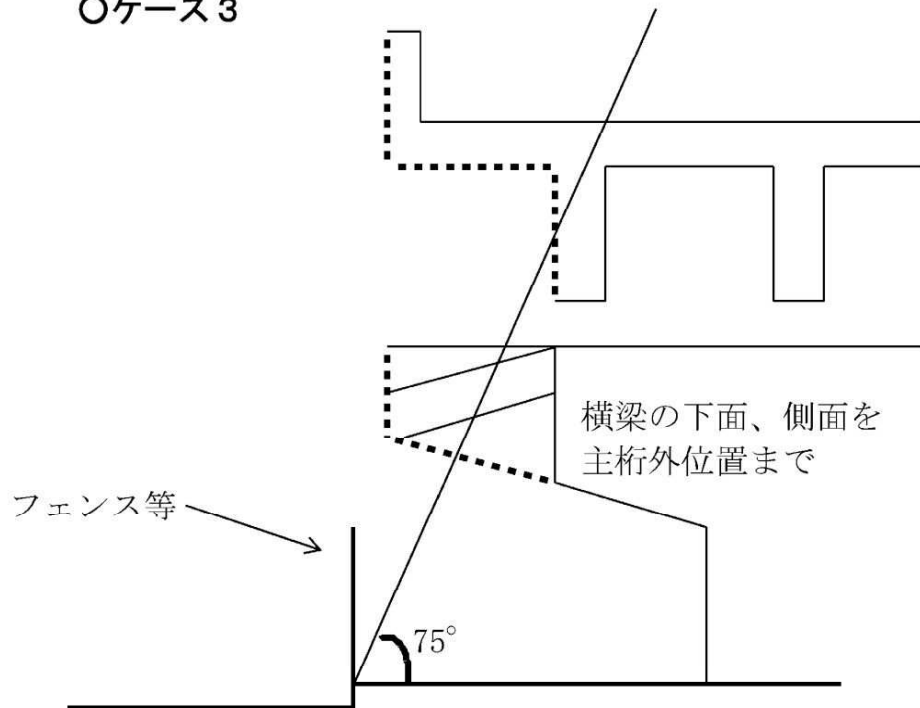
○ケース 1



○ケース 2



○ケース 3



○ケース 4

